

校歌を知ろう！

みなさんは、入学式で校歌を耳にしたでしょう。法政大学の現在の校歌は、学生たちの間で新たに作成の気運が高まって、それまで歌われていた校歌(現、行進曲)に代わり、1930(昭和5)年に制定されました。そのための募金活動、作詞・作曲者の選定・依頼も学生が担った、まさに「学生による校歌」であるのも本学らしいところです。

1 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて(ああ)愛する母校
見はるかす窓(の)富士が峯の雪
蛍集めむ 門の外濠
よき師よき友 つどひ結び
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

2 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて(ああ)愛する母校
われひと共にみとめたらずや
進取の氣象 質実の風
青年日本の代表者
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

Alla Marcia

元気のよい行進曲の速度

The musical score is written in G major (one sharp) and 4/4 time. It consists of six staves of music with lyrics underneath. The lyrics are: わが—きわれらが い—のちのかぎり こ—
ここに さ—き—げて あああいする母 校—み
はるかすまど—のふ—じがねのゆきほ
たるあ—つ—めんかど—のそ—とほりよ
きしよ—きとも つどひむすべり 法—
政—おおわが母校 法政 おおわが母校—



▲近衛秀麿直筆法政大学校歌楽譜

まず、これからずっと愛する母校のために尽くそうという志を謳います。

1番の「見はるかす窓の富士が峯の雪、蛭集めむ門の外濠」は、その名も富士見坂から、はるか遠くに雪を頂く富士山を望み、清らかな水をたたえその上を舞う蛭を集められる外濠に隣接する母校には「蛭」「雪」が揃っていて、勉学に励むのに最適だという意味です。蛭の光や窓の雪の光で勉学に励んだ中国古代、六朝時代の学者車胤・孫康の「蛭雪の功」の故事をふまえています。昔は外濠も蛭が住めるほどにきれいだったのでしょう。

2番の「われひと共に認めたらずや、進取の気象、質実の風」は、我々学生たちもまた他の人々も皆が必ずや認める（「～たらずや」は「認めないことがあるうか」、反語表現です）、法政大学の時代を先取りする自由でありながらも、飾らない学風を称えます。

作詞者佐藤春夫は、抒情的な作風で知られる詩人で、小説や随筆等にも多才さを発揮した、大正・昭和初期を代表する作家の一人。当時、本学で文章の講義を担当していました。近衛秀麿は、後に首相を務める近衛文麿の弟で、指揮者・作曲家として、草創期の日本のオーケストラ運動を担った人物です。応援団員の古い回想文によれば学生の手で作曲を依頼したといえます。

本学ホームページには音源も掲載しています。六大学の校歌の中でも音域が広く、美しい旋律をもつこの校歌。その意味をかみしめつつ聞いてみましょう。



法政大学校歌の
試聴ページ

<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/symbol/koka.html>



作詞者
佐藤 春夫
Haruo Sato



作曲者
近衛 秀麿
Hidemaro Konoe



霞五郎,1981,
『法政大学物語百年史』
法友新聞社